

## 第2章 「宮前の伝統芸能」

### 1 とらまい 虎舞

#### ① とらまい お 虎舞の起り

けいちょう ねん 1597年、かとう よしあき 加藤嘉明は、とよとみひでよし 豊臣秀吉のだい 2回 かいちょうせんしゅつべい 朝鮮出兵にいよ 伊予のゆうし 勇士2400人を率いてしゅつせい 出征し、おお 大いにふんせん 奮戦した。そのよくとし 翌年のけいちょう ねん 慶長3年のはる 春、よしあき 嘉明はちようせん 朝鮮のさんちゆう 山中で、とら 虎狩りを行って、おお 大きなとら 虎を射止めた。さっそく とら 虎をほくせい 剥製にし、そのあたま 頭とかわ 皮をひでよし 秀吉にけんじょう 献上した。よしあき 嘉明は、ひでよし 秀吉からおれい 褒状を受け、ちようせんはんとう 朝鮮半島からふるみつ 古三津に帰ってきたおかだ 岡田兵衛のひょうえん 提案で、このひょうえん 猛虎狩の様子をもうこがり 虎舞に取り入れて、とらまい 古三津のふるみつ 伝統芸能にしてほぞん 保存しようということになった。いらいまいとし 以来毎年、10月のあきまつ 秋祭りにこれを おど 踊りついで、こんにち 今に至っている。

#### ② おど ないよう 踊りの内容について

基本はししまい 獅子舞とおなじで、まえ 前と後ろのふたり 二人でとら 虎のおど 踊る役を演じている。踊りの前半は無敵を誇るちようせん 朝鮮虎が、てんか 天下泰平とばかりおど 踊りまわる場面である。そこへ、とら 虎狩りに参加しているせこ 勢子（狩りでとら 鳥やけものを狩り出すひと）があらわ 現れ、無敵を誇るちようせん 朝鮮虎とせこ 死闘を繰りひろげるのがこうはん 後半である。やがてせこ 勢子は、あくせん 悪銭くとう 苦闘の末、ようやく 猛虎をもうこ 退治するといふおど 踊りである。



あきまつ こども とらまい 秋祭りの子ども虎舞

とらまい とら ひく しせい はら  
 虎舞の虎は、低い姿勢と腹ばい  
 の習性が、獅子と違い、かなり  
 じゅうろうどう  
 重労働だよ。



### ③ おどり じんいんこうせい 踊りの人員構成について

- ① とらづか めい かしら めい しっぽ めい  
虎使い2名（頭1名、尻尾1名）
  - ② せこ ひなわじゅう も ぼうぐ つ  
勢子1名（火縄銃を持ち、防具を付ける）
  - ③ ふえ たけぶえ もち こん しろ  
笛2名（竹笛を用い紺のはっぴに白だすきをしめる）
  - ④ たいこ おおだいこ もち こん しろ  
太鼓1名（大太鼓を用い紺のはっぴに白だすきをしめる）
- ごうけい  
合計 6名

### ④ おど ちゅうかん せこ せりあ 踊りの中間での勢子の台詞

よ 読めたりや、よ 読めたりや、さては いこく とらがり ふえ たいこ  
 勢子のもの、ここは聞こえし千里が原、虎いななけば風おこる 猛獣の精  
 とおぼえたり。 にじゅうしこう ようこう こうこう とく しぜん あくこう  
 二十四孝の陽光は孝行の徳により自然とのがれし悪孝  
 の難、その 孝行におとるとも、 ちゅうぎ いさ わ ゆうき とう わた ちから ため  
 難、その孝行におとるとも、忠義に勇む我が勇氣。唐へ渡りて力を試  
 し、 じんりきま やまとちから とら おに へび  
 神力増します大和力、虎はおろか鬼でも蛇でもひとくじき。

### ⑤ あるみつ とらまい 古三津の虎舞

ふるみつ とらまい み ついつくしまじんじゃ あきまつ ほうのう ゆうめい  
 古三津の虎舞は、三津 巖 島神社の秋祭りに奉納されている。有名な  
 けんか 御輿が、10月7日の午前1時より宮出しになるが、その露払いに  
 ごぜん じ ぶん じんじゃ しず そうごん しんいき とらまい あらあら  
 午前0時30分より、神社の静まりかえった荘厳な神域で虎舞の荒々しい  
 ショーが始まる。この他、ほか ちいき ぶんかぎょうじ きょうさん せつきよくてき ひろう  
 ショーが始まる。この他、地域の文化行事に協賛して、積極的に披露に  
 つとめている。また、まつやまし いちだいぶんか まつやまし ぶんか  
 つとめている。また、松山市の一大文化イベントである「松山市民文化  
 さい まいとし しゅつえん しみん こうひょう はく とらまい  
 祭」に、毎年のように出演し、市民から好評を博している。この虎舞を  
 でんしょうほぞん ふるみつとらまいほぞんかい へいせい ねん  
 伝承保存しているのが「古三津虎舞保存会」である。また平成3年より、  
 ふるみつ とらまいほぞんかい ほっそく みやまえこうみんかん まいつきだい だい  
 「古三津こども虎舞保存会」が発足され、宮前公民館で、毎月第2・第4  
 どのようび ごご じ ぶん じ れんしゅう けいろうかい ぶんかさい  
 土曜日、午後7時30分～9時まで、練習をしている。敬老会や文化祭、  
 まつやまし こ げいのうたいかい しゅつえん かつどう ひろ  
 松山市子ども芸能大会などに出演し、活動を広げている。

ほぞんかい とく こうけいしゃ いくせい  
 保存会では、特に後継者の育成  
 ちから い ねん つづ  
 に力を入れているよ。400年も続  
 でんとうげいのう ともしび け  
 く伝統芸能の灯を消してはなら  
 ないと、指導者の方々は、懸命に  
 しどう つと けんめい  
 指導に努めているんだよ。



こども とらまい  
子ども虎舞



## 2 伊予源之丞

### ① 「伊予源之丞」のはじまり

「伊予源之丞」とは、古三津地区に伝わる人形浄瑠璃（人形芝居）である。

今からおよそ300年前（江戸時代）、三津の恵美須神社のお祭りに淡路島から人形芝居をまねいて上演したところ、たくさんの人々が集まり、大変にぎわったそうである。

そこで、三津浜の人たちは、なんとか自分たちの手で地域の人形芝居をつくり、三津浜の町を活気付けたいと考えた。

そして、今から150年ほど前の明治時代のはじめ、宝来屋新造という人が「宝来座」をつくり、人形芝居を始めた。これが大変評判になり、明治時代には、県内各地をはじめ、九州や朝鮮、中国など、遠くまで上演しに出かけていた。

大正時代には一時とさえそうになったが、人々の努力により続けられてきた。昭和10年には現在の「伊予源之丞」と名前を変え、昭和34年には「伊予源之丞保存会」が結成されて、今でも大切に受け継がれている。



傾城阿波鳴門

### ② 人形の動かしかた

人形浄瑠璃は、義太夫節（歌のような言葉）をいう人、三味線をひく人、人形を動かす人が協力して行う。一人の人形は、3人が動かす。主遣いは、左手で首の棒を握り、右手で人形の右手を操る。主遣いは顔を出して人形を動かすが、あと2人は黒子といって、黒い布で体をおおい、顔は見せない。左遣いは人形の左の手を操り、足遣いは両足を操る。

③ **貴重な文化財 人形**

「伊予源之丞」の人形頭や衣装など、道具一式は貴重な文化財で、昭和52年に愛媛県有形民俗文化財に指定された。現在は、宮前公民館に保存されている。

特に注目されるのは、人形の頭である。人形の頭は79点もあり、この中には、阿波（徳島県）の名人天狗屋久吉が作ったもの42点、天狗屋弁吉が作ったものが5点、松山の名工といわれた面光が作ったものが5点含まれている。これらの作品は、ほとんどが明治末期のもので、とても貴重なものである。また、豪華な衣装や江戸時代の床本も残っている。



たまものまえあさひのたもと  
玉藻前 旭 袂

④ **守り続けた伝統文化**

演じられる物語の中で有名なものは、「玉藻前旭袂（たまものまえあさひのたもと）」「傾城阿波鳴門（けいせいあわのなると）」「戎舞（えびすまい）」などである。どの話も、ほのぼのとしたあたたかさやさしさを人々に感じさせるものである。

人形芝居は、心あたたまるふるさとでなければ育たないとされている。伝統文化「伊予源之丞」をずっと守り続けたものである。



### 3 久枝神社のお神楽

#### ① 「神楽とは？」

神楽とは、神の霊を慰めるために、神前で音楽を演奏したり、それに合わせて踊ったりするもので、いわば、劇である。全国各地にいろいろな神楽が残っており、特に、愛媛県に残っているものを「伊予里神楽」と呼んでいる。

この「伊予里神楽」は、江戸時代より伝えられたものであり、五穀豊穰（作物がたくさんとれますように）・家内安全（みんなが安全に暮らせますように）・無病息災（病気をせず元気に暮らせますように）を祈り願うために今もいくつかの神社で行われている。



ひさえだじんじや  
久枝神社

久枝神社では毎年5月16日の春祭りに、また、巖島神社では毎年7月17日十七夜祭に、大勢の見物の人たちが集まる中で「伊予里神楽」が演じられている。

久枝神社は、宮前小学校の近くにある巖島神社とてもつながりが深いんだね。



いよさとかぐら  
伊予里神楽

② 「現在演じられている舞」

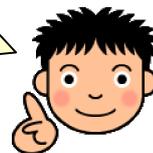
げんざいえん ばんざいえん かぐら こうもく まいのくち ゆみのまい ばん  
 現在演じられている神楽の項目は、「舞之口」から「弓之舞」まで十番あり、約2時間かかる。

- ばん ばん まいのくち → 神楽の最初の舞で、神々を願い迎える舞  
 一番 「舞之口」  
 ばん ばん こ → 子どもの舞で、すべての神楽の基本となる舞  
 二番 「稚児神楽」  
 ばん かみむかえ → 神を迎える二人の舞  
 三番 「神迎」  
 ばん ばん やまのおう → 神が沖より現れて舞う白髪の翁の舞  
 四番 「山之翁」  
 ばん ばん たぐさ → 笹の葉を持って打ち振るうことによりけがれを祓う二人の舞  
 五番 「手草」  
 ばん ばん さんめん → 神功皇后が戦いに向けて旅立つ舞  
 六番 「三面」  
 ばん ばん してん → 国を守る四天王の舞  
 七番 「四天」  
 ばん ばん だいま → 神にはむかう悪い大魔の舞で、笹を持って舞う。最後に四天王との戦いがある勇壮な舞  
 八番 「大魔」  
 ばん ばん きがえし → 大魔を退治し、けがれを祓う舞  
 九番 「鬼帰」  
 ばん ばん ゆみのまい → おさめの舞で、地域の人々が豊かに幸せに暮らせるように願う舞  
 十番 「弓之舞」



ばん だいま まい してんのう こうさん あと ささ うじこ  
 八番「大魔の舞」で、四天王に降参した後は、笹を氏子  
 ひとびと ま あた うじこ ひとびと ささ まよ ささ  
 の人々に撒き与え、氏子の人々はこの笹を「魔除けの笹」  
 げんかんぐち た  
 として玄関口に立てておくそうだよ。

まつやま い しんかい しんしよく だんたい ひと  
 松山では、惟神会という神職の団体の人たち  
 が、かぐら う つ ほぞん つと  
 神楽を受け継ぎ保存に努めているそうだよ。



わたし ちく でんとうげいのう  
 私たちの地区の伝統芸能  
 だから、わたし じもと ひと  
 私たち地元の人たち  
 で受け継いで、しゅつえん  
 出演できるようにいいね。

